

## 中山道六十九次①

|    |     |   |
|----|-----|---|
|    | 日本橋 | 橋の名前。慶長8年(1603)、初代日本橋(木造)が架けられ、慶長9年(1604)、この橋を起点に五街道(東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道)が定められた。                                   |
| 1  | 板橋  | 板の橋。当時は珍しかった「板の橋」であったことから地名が発した。  |
| 2  | 蕨   | 古称、藁火(わらび)。藁火を焚く所。または、「わら」は「わり(割)」に通じ崩壊地の意か。  |
| 3  | 浦和  | 古称、浦曲。古代は海岸線が入り込んで(浦)、湾曲した所。  |
| 4  | 大宮  | 氷川神社の尊称。  |
| 5  | 上尾  | 上は高地・台地の意。尾は平坦地・裾野。   |
| 6  | 桶川  | ①「沖側一オキガワ」、「オキ」は広々とした田畑の意で、「沖側」が桶川に転訛。②「起き川」、当地に水源地があることから、「起き川」・「興き川」が桶川に転訛。③川の曲流部が桶のように深い淵を作ったので、「桶があるような川」で桶川が発した。 |
| 7  | 鴻巣  | 「こうのとりの伝説」から「鴻巣」の字をあてたとする説が有力。当地の氷川神社を通称、鴻の宮という。  |
| 8  | 熊谷  | 熊(くま)は隈で、山や川が曲がりこんだ所・奥地。谷(や)は窪地・湿地。   |
| 9  | 深谷  | 深(ふか)・谷(や)は、窪地・湿地。反復地名。   |
| 10 | 本庄  | 古称、「若泉の荘」。荘園の中心地であったことから「本荘」、「本庄」に換え字。新庄の対語。  |
| 11 | 新町  | 2か村が合併して新しく出来た宿場町。  |
| 12 | 倉賀野 | 古称、倉加野・倉ヶ野・倉金・倉加禰。鎌倉期の倉賀野氏の姓に因む。または、倉(くら)は鞍(くら)で、山の尾根、凹み部。野は原野・土地の意。山間の開墾地か。  |
| 13 | 高崎  | 古称、和田。井伊直政が当地に城を築いた際、縁起担ぎで「高崎」と名付けた。  |
| 14 | 板鼻  | 古称、蘭田鼻(いたはな)。蘭(い)は蘭草(いぐさ)。蘭田(いだ)は蘭草を栽培する田んぼ。鼻(はな)は端・先端・外れ。合わせて、蘭草の田んぼの先端地の意。  |
| 15 | 安中  | 古称、野尻。戦国時代、安中出羽守忠親がこの地を領した際、姓の「安中」に改称した。  |
| 16 | 松井田 | 寺院の号名。鎌倉時代、当地の松井田院不動寺の近くに湧水池があって、この池が開拓の始まりとなったことで、「松井田」の地名が発した。  |

## 中山道六十九次②

|    |     |  |
|----|-----|--|
| 17 | 坂本  | 坂の麓。碓氷峠の坂の麓に位置する所。   |
| 18 | 軽井沢 | 水が涸れる沢の意味で「枯れ井（水）の沢・涸れ井（水）の沢」からの転訛が有力。   |
| 19 | 沓掛  | 沓（くつ）は、草鞋（わらじ）のこと。峠道・急坂道などに差し掛かった際、新しい沓（草鞋）に履き替え、古い沓（草鞋）は山神（やまのかみ＝石碑）に供えて旅の安全を祈った慣行に因む。  |
| 20 | 追分  | 街道が二つに分かれる所。分岐点。   |
| 21 | 小田井 | 戦国時代、小田井吉六郎副親が城を築城。当地を姓の小田井と命名した。  |
| 22 | 岩村田 | 岩（が）群（む）れている田。岩石の多い所。  |
| 23 | 塩名田 | 古称、塩灘、塩灘太。塩は貴重品で、塩が運ばれてくるルートを「塩の道」と呼び、「塩尻」などと同様、塩の関連地名の名残。名田とは耕作者の名を付した田地の意味。  |
| 24 | 八幡  | 八幡神社の社号。   |
| 25 | 望月  | 満月の形容。毎年旧暦8月15日の満月の日に馬を朝廷や幕府に献上していたことから、「望月」の名が発した。  |
| 26 | 芦田  | 芦（あし）は、葦と同義。水辺の浅い岸に生える植物。  |
| 27 | 長久保 | 久保は、くぼんだ地・窪地。  |
| 28 | 和田  | 輪のように曲がった地形。山の窪み・低地。   |
| 29 | 下諏訪 | 諏訪は、音の当て字で意味はない。原意は砂浜・砂州・砂須の意。諏一す・しゅ・はかる・相談する・選ぶ。訪一ほう・訪れる・行ってたずねる・聞く・問う。古事記では「州羽」、続日本紀では「諏方」。他にも「須波」「須芳」などの表記もある。高島藩が「諏訪」と書くように藩命を出した。 |
| 30 | 塩尻  | 塩が運ばれてくるルートを「塩の道」と呼び、塩尻は「塩の道の尻＝終点・終着地」の意。  |
| 31 | 洗馬  | 故事。木曾義仲の家臣、今井兼平が義仲の馬の足を清水で洗い癒したことに因む。  |
| 32 | 本山  | 山のふもと・麓。   |
| 33 | 贄川  | 贄とは神に供進する食物の総称。当地の神事に川魚を供進したことから贄川と呼ばれた。   |
| 34 | 奈良井 | 古称、榑井。榑（団栗がなる木）が繁茂している土地。奈良に換え字。井は、市井・集落の意。  |
| 35 | 藪原  | 草木や竹が生い茂っている所。   |

## 中山道六十九次③

|    |     |  |
|----|-----|--|
| 36 | 宮ノ越 | 当地のお宮が山の中腹（腰）に位置することから宮ノ越（腰）と呼ばれようになった。      |
| 37 | 福島  | 福は幸い・幸福。島は土地。瑞祥地名。                           |
| 38 | 上松  | 木曾川の河岸段丘の上（高地）にある集落の呼称。                      |
| 39 | 須原  | 須は洲。川・湖・海の底に土砂がたまって水面上に現れたもの。浅瀬。原は原野・開墾地。    |
| 40 | 野尻  | 原野（平地）の続きが終わる所（尻）。                           |
| 41 | 留野  | 留は留まる・止め・未だ。野は原野。未開墾地。                       |
| 42 | 妻籠  | 妻は先端の意。籠（ご）は詰め込める。一番先端が込みいつている（集落）の意。村外れ。    |
| 43 | 馬籠  | 馬は間・あいだ。籠（ご）は詰め込める。間・あいだが込みいつている（集落）の意。村の中心。 |
| 44 | 落合  | 2つの川が落ち合う（合流する）所。                            |
| 45 | 中津川 | 3つの川の、真ん中を流れる川を中の川と呼び、中津川（津=の）と表記した。         |
| 46 | 大井  | 大は大きい・大きな。井は井戸・井堰・水路の意。また、井は、市井・集落の意もある。     |
| 47 | 大湫  | 湫（くて）は湿地・窪地・沼沢地の意。大きい湿地。                     |
| 48 | 細久手 | 久手（くて）は湿地・窪地・沼沢地の意。細長い湿地。                    |
| 49 | 御嶽  | 山の尊称。  |
| 50 | 伏見  | 地下水の謂いで「伏し水→伏水→伏見」に転訛。                       |
| 51 | 太田  | 大きな田んぼ。                                      |
| 52 | 鵜沼  | 鵜が棲息している沼・土地。                                |
| 53 | 加納  | 加納田の略。荘園の非正規の開墾地（免税地）。正規の本納田（課税地）に対する語。      |
| 54 | 河渡  | 古称、江渡・合渡・川戸・河戸・江戸。川の合流点。                     |
| 55 | 美江寺 | お寺の寺号。奈良時代、当地に美江寺があった。                       |
| 56 | 赤坂  | 赤は赤土・粘土。坂は傾斜地・丘陵。                            |
| 57 | 垂井  | 水が滴（した）垂（た）り落ちる様。井は井戸・湧水。                    |

## 中山道六十九次④

|    |     |   |
|----|-----|---|
| 58 | 関ヶ原 | 古称、和射見野（わざみの）・大関・関原。関所があった場所。原は原野、場所や村の意。                           |
| 59 | 今須  | 古称、居益。領主の菩提寺が年貢の取立てには大枡を用い、米の貸付には小枡をと、異なる枡（異枡）を用いたことで、異枡の語が発して転訛。   |
| 60 | 柏原  | 柏は傾斜地。原は原野、場所や村。  |
| 61 | 醒井  | 古称、居寤清泉（いづめのしみず）の転訛。ヤマトタケル伝説—この清水で元気を取り戻した。                         |
| 62 | 番場  | 古称、馬場。原野に馬を放った場所、または関所の番人が居た場所によるという。                               |
| 63 | 鳥居本 | 多賀大社の鳥居があったので、鳥居本の名が発した。  |
| 64 | 高宮  | 古代の郷名。犬上郡高宮郷をそのまま継承。高宮は多賀大社の古称で、多賀（高）の宮の換え字。                        |
| 65 | 愛知川 | 当地を開拓した渡来系族・秦氏の一族、依智秦氏（えちはたうじ）の氏姓に因む。依智（えち）川を愛知（えち）川に換え字。           |
| 66 | 武佐  | 古称、牟佐。当地を開拓した渡来氏族・牟佐氏の本拠地に因む。                                       |
| 67 | 守山  | 山を守る＝比叡山を守るの意。当地に比叡山延暦寺の荘園があった。比叡山の東（鬼門）を守るため、東門院（比叡山東門院守山寺）が建てられた。 |
| 68 | 草津  | 草は湿地。津は港・集散地。   |
| 69 | 大津  | 大きな港・主要な港の語。  |
|    | 京都  | 首都を意味する語。   |